

サル山の頭数管理に関するこれまでの経緯と今後の計画について

市川市動植物園のサル山では 2026 年、ニホンザルの出産が続いています。出産後元気な赤ちゃんもいれば、残念ながら流産や出産後に亡くなるケースもあり、私たちは日々、大切な命と向き合いながら動物たちの飼育を続けています。

この声明では「現在のニホンザルの頭数は増えすぎではないか？」とのご心配の声にお答えするとともに、当園のニホンザルについて頭数管理のこれまでの経緯と今後の計画についてご説明いたします。

【これまでの経緯】

当然のことながら当園は、日本動物園水族館協会(以下「JAZA」といいます)の加盟園として、園内の全ての動物について、JAZA の定めるアニマルウェルフェア規程を遵守しつつ繁殖計画を立て、飼育を続けております。

ニホンザルについてこれまで当園では、年ごとに前年夏までに繁殖計画を立て、制限が必要な年についてはメスに繁殖抑制剤を投与することで頭数管理をしてきました。

2026 年の計画については、長期の使用を踏まえ繁殖抑制剤の休薬を実施したこと、サル山担当者が交代し、サルの性行動について観察させる必要があったこと、そして 2025 年 7 月にパンチが生まれ、人工哺育となったことを踏まえ、年少の個体がいの方がパンチの群れ入れに有効と思われること、の理由により繁殖制限を実施いたしませんでした。このことが、2026 年の多頭出産の理由です。

もとより、この多頭出産は私たちの想定範囲内の出来事です。過去には現在を上回る個体数を飼育した経験もあることから、2026 年現在の個体数がサル山にとって著しく過剰でストレスフルな環境であるとは考えておりません。

【今後の計画】

パンチが大きな話題になった本年 3 月、JAZA は当園のニホンザルに関するアニマルウェルフェア調査を行いました。当園の飼育マニュアルやエンリッチメントの実績、そして繁殖計画を提出し概ね理解が得られましたが、繁殖制限技術の向上や、より中長期的な繁殖計画の策定等、更なる改善についての助言もいただきました。

これを受け、当園としては今後しばらくの期間、サル山での繁殖はほぼ無いが、ごく少数とするような繁殖計画としております。

折しも、先日市川市議会にて議決された補正予算の中に「バックヤードの拡張」に関する経費が計上されました。これは単に生活空間の拡張を目指すだけでなく、今後のエンリッチメントの推進を見据え、サル山の増設や改修等、様々な可能性に道を開くものです。

現在、当園のサル山ではパンチの群れ入れを最優先に考えていますが、パンチのみならず全てのニホンザルがより快適な生活が送れるよう取り組んでまいります。

これからも、パンチを始めサル山のニホンザルたちを見守って頂けるようお願いいたします。

2026 年 6 月 29 日

市川市動植物園